

長崎

祭りのステージで結ぶ

港町家通り

眼鏡橋の向こう側って何があるの？

日本最古の石造りアーチ橋として有名な眼鏡橋。この眼鏡橋には毎日多くの観光客が訪れ、賑わっている。しかし、眼鏡橋から諏訪神社へと足を向ける観光客はほとんどいない。眼鏡橋をはじめ、現在 12 の石橋がかかっているこの通りは、町家の建物が並ぶ職人の町として栄えてきた。また、この町は祭りの町としても有名であり、長崎くんちの中心地となっている。長崎の街と人を縦と横に繋ぐ重要な通りであるにも関わらず、現在は長崎町人の生活道として根付いてきたその通りの雰囲気や部分的にしか感じることはできない。そこで、この港町家文化である祭りを感しながら諏訪神社へ向かってほしい！長崎の街並みを再現するためのプロポーザルとして、「長崎港町家通り」と名付け提案したい。

長崎くんち

長崎の氏神「諏訪神社」の秋季大祭。毎年 10 月 7 日から 3 日間に渡り開催される。演し物を披露する踊り町と呼ばれる町は 59 カ町あり、7 つの組に分けられている。奉納踊りを出す当番は 7 年に一度となっており、各町それぞれの個性を活かした演し物が見どころである。この長崎くんちは、370 年余りの歴史を持ち国指定重要無形文化財となっている。



水辺へのプロポーザル

諏訪神社

ステージ

ステージ 2



ステージ 3 現在

祭りのステージで結ぶ

祭りのステージを 3 カ所作り、くんちの旗を置くことによって通りに一体感を持たせた。これらのステージはくんちの練習としても使用でき、歩きながら港町家文化を感じることができる。また、ステージを觀賞するゆるやかな階段を作ることで親水性を持たせた。

写真は長崎商工会議所ホームページ、長崎市観光ホームページより

ステージ 3 将来

